

健康社会医学

1 構 成 員

	平成 27 年 3 月 31 日現在	
教授	1 人	
准教授	1 人	
講師（うち病院籍）	0 人	(0 人)
助教（うち病院籍）	2 人	(0 人)
診療助教	0 人	
特任教員（特任教授、特任准教授、特任助教を含む）	0 人	
医員	0 人	
研修医	0 人	
特任研究員（訪問共同研究員、特別奨励研究員を含む）	9 人	
大学院学生（うち他講座から）	10 人	(0 人)
研究生	3 人	
外国人客員研究員	0 人	
技術職員（教務職員を含む）	0 人	
その他（技術補佐員等）	2 人	
合計	28 人	

2 教員の異動状況

尾島 俊之（教授）（H18.4.1～現職）

中村 美詠子（准教授）（H24.4.1～現職）

柴田 陽介（助教）（H 26.4.1～現職）

岡田 栄作（助教）（H 26.4.1～現職）

3 研究業績

数字は小数 2 位まで。

	平成 26 年度	
(1) 原著論文数（うち邦文のもの）	20 編	(7 編)
そのインパクトファクターの合計	29.79	
(2) 論文形式のプロシーディングズ及びレター	4 編	
そのインパクトファクターの合計	0.00	
(3) 総説数（うち邦文のもの）	5 編	(5 編)
そのインパクトファクターの合計	0.00	
(4) 著書数（うち邦文のもの）	7 編	(7 編)
(5) 症例報告数（うち邦文のもの）	0 編	(0 編)
そのインパクトファクターの合計	0.00	

(1) 原著論文（当該教室所属の者に下線）

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1. Ozeki K, Noda T, Nakamura M, Ojima T. Weather and headache onset: a large-scale study of headache medicine purchases. *Int J Biometeorol*, 59(4), 447-451, 2015. [2.104]
 2. Tsutsui H, Ojima T, Ozaki N, Kusunoki M, Ishiguro T, Oshida Y. Validation of the comprehensive international classification of functioning, disability and health (ICF) core set for diabetes mellitus in patients with diabetic nephropathy. *Clin Exp Nephrol*, 19, 254-263, 2015. [1.708]
 3. Ito C, Yuzuriha T, Noda T, Ojima T, Hiro H, Higuchi S. Brief intervention in the workplace for heavy drinkers: a randomized clinical trial in Japan. *Alcohol Alcohol*, 50(2), 157-163, 2015. [2.092]
 4. Tsutsui H, Ojima T, Tsuruta Y, Kato S, Yasuda Y, Oshida Y. Validity of a checklist for hemodialysis patients based on the International Classification of Functioning, Disability and Health. *Ther Apher Dial*, 18(5), 473-480, 2014. [1.532]
 5. Hayasaka S, Horiguchi I, Kawaminami K, Watanabe H, Marui E : Proportion and background factors of the general public's utilization of balneotherapy at non-medical facilities: A cross-sectional study in Japan. *J Jpn Soc Balneol Climatol Phys Med*, 77, 159-170, 2014. [0.00]
 6. 尾島俊之、JAGESプロジェクト。Urban HEARTの枠組みを活用した介護予防ベンチマーク指標の開発。 *医療と社会*, 24(1), 35-45, 2014.
 7. 尾関佳代子、筒井秀代、野田龍也、中村美詠子、佐藤圭子、稲葉やす子、平山朋、宇津木志のぶ、赤堀摩弥、尾島俊之。静岡県健康長寿プログラム（ふじ33プログラム）が社会参加にもたらす効果。 *厚生*の指標, 62(2), 24-29, 2015.
 8. 長幡友実、中出美代、長谷川順子、兼平奈奈、西堀すき江、住まい別にみた大学生の朝食欠食習慣に及ぼす要因。 *栄養学雑誌*, 72(4), 212-219, 2014.
 9. 明神大也、筒井秀代、中村美詠子、尾島俊之。降雪量と雪による死傷者数の関連とその地域差に関する研究。 *社会医学研究*, 32(1):67-72, 2015.
インパクトファクターの小計 [7.436]
- B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの（学内の共同研究）
1. Kurata S, Ojima T. Knowledge, perceptions, and experiences of family caregivers and home care providers of physical restraint use with home-dwelling elders: a cross-sectional study in Japan. *BMC Geriatr*. 14(1), 39, 2014. [2.000]
 2. Sakabe J, Kamiya K, Yamaguchi H, Ikeya S, Suzuki T, Aoshima M, Tatsuno K, Fujiyama T, Suzuki M, Yatagai T, Ito T, Ojima T, Tokura Y. Proteome analysis of stratum corneum from atopic dermatitis patients by hybrid quadrupole-orbitrap mass spectrometer. *J Allergy Clin Immunol*, 134(4), 957-960,

2014. [11.248]

インパクトファクターの小計

[13.248]

C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの

1. Sugaya A, Fukushima K, Kasai N, Ojima T, Takahashi G, Nakagawa T, Murai S, Nakajima Y, Nishizaki K. Effectiveness of Domain-Based Intervention for Language Development in Japanese Hearing-Impaired Children: A Multicenter Study. *Ann Otol Rhinol Laryngol*, 123(7), 500-508, 2014. [1.212]
2. Saito M, Kondo K, Kondo N, Abe A, Ojima T, Suzuki K; JAGES group. Relative deprivation, poverty, and subjective health: JAGES cross-sectional study. *PLoS One*, 9(10), e111169, 2014. [3.534]
3. Yamada T, Chen CC, Murata C, Hirai H, Ojima T, Kondo K, Harris JR 3rd. Access disparity and health inequality of the elderly: unmet needs and delayed healthcare. *Int J Environ Res Public Health*, 12(2), 1745-1772, 2015. [1.993]
4. Watanabe H, Kikkawa I, Madoiwa S, Sekiya H, Hayasaka S, Sakata Y : Changes in blood coagulation-fibrinolysis markers by pneumatic tourniquet during total knee joint arthroplasty with venous thromboembolism. *J Arthroplasty*, 29, 569-573, 2014. [2.369]
5. Kamioka H, Tsutani K, Maeda M, Hayasaka S, Okuizum H, Goto Y, Okada S, Kitayuguchi J, Abe T : Assessing the quality of study reports on spa therapy based on randomized controlled trials by the spa therapy checklist (SPAC) . *Complement Ther Clin Pract*, 20, 317-333, 2014. [0.00]
6. Goto Y, Hayasaka S, Nakamura Y : Health effects of seasonal bathing in hot water, seasonal utilization of hot spring facilities, and high green tea consumption. *J Jpn Soc Balneol Climatol Phys Med*, 77, 171-181, 2014. [0.00]
7. 原豪志、戸原玄、近藤和泉、才藤栄一、東口高志、早坂信哉、植田耕一郎、菊谷武、水口俊介、安細敏弘 : 胃瘻療養中の脳血管障害患者に対する心身機能と摂食状況の調査. *老年歯科医学*, 29, 57-65, 2014.
8. 遠又靖丈、辻一郎、杉山賢明、橋本修二、川戸美由紀、山田宏哉、世古留美、村上義孝、早川岳人、林正幸、加藤昌弘、野田龍也、尾島俊之. 健康日本21 (第二次) の健康寿命の目標を達成した場合における介護費・医療費の節減額に関する研究. *日本公衆衛生雑誌*, 61(11), 679-685, 2014.
9. 井上みゆき、篠原亮次、鈴木孝太、山崎嘉久、尾島俊之、松浦賢長、玉腰浩司、市川香織、山縣然太郎. 母親の主観的虐待観と個人的要因および市区町村の対策との関連 健やか親子21の調査から. *小児保健研究*, 73(6), 818-825, 2014.

インパクトファクターの小計

[9.108]

(2-1) 論文形式のプロシーディングズ

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1. Ojima T, Hayasaka S, Murata C, Nakade M, Nakamura M, Nakamura H, Okada E, Kondo K for the JAGES group. Regular bathing and sleep quality among older Japanese: large scale JAGES project. J Jpn Soc Balneol Climatol Phys Med; 77(5):522-523, 2014.
2. 尾島俊之, 竹田徳則, 平井寛, 田淵貴大, 小嶋雅代, 斉藤雅茂, 近藤尚己, 相田潤, 仲村秀子, 岡田栄作, 中村美詠子, 近藤克則, JAGES グループ. 喫煙による認知症のリスク JAGES コホートプロジェクト. 日本循環器病予防学会誌, 49(2), 169, 2014.
3. 尾島俊之. 災害における公衆衛生的な活動を行なう支援体制(DHEAT)の構築にむけて 大規模災害における公衆衛生アセスメント. 日本公衆衛生学雑誌, 61(10 特別付録), 91, 2014.
4. 尾島俊之, 明神大也, 原岡智子, 中瀬克己, 高橋善明, 吉野篤人, 浜松市における中学校区単位の南海トラフ地震の人的被害及び患者数推定とマップの作成. 日本集団災害医学会誌, 19(3), 457, 2014.

B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し, 共著者が当該教室に所属していたもの (学内の共同研究)

C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し, 共著者が当該教室に所属していたもの

(2-2) レター

(3) 総 説

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1. 尾島俊之, JAGES プロジェクト. Urban HEART の枠組みを活用した介護予防ベンチマーク指標の開発. 医療と社会, 24(1), 35-45, 2014.
2. 尾島俊之. 小児医療水準を維持・向上させるための環境整備 ～課題3の到達点. チャイルドヘルス, 18(4), 292-294, 2015.
3. 尾島俊之. 健康寿命の算定方法と日本の健康寿命の現状. 心臓, 47(1), 4-8, 2015.
4. 尾島俊之. 大規模災害における公衆衛生アセスメント. 公衆衛生情報, 44 (10), 8-9, 2015.

インパクトファクターの小計 [0.00]

B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し, 共著者が当該教室に所属していたもの (学内の共同研究)

C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し, 共著者が当該教室に所属していたもの

1. 小林隆夫, 杉浦和子. 女性ホルモン剤と血栓症の歴史. Thrombosis Medicine, 4(4), 2014.

インパクトファクターの小計 [0.00]

(4) 著 書

- A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの
1. 尾島俊之. コミュニティーづくり. 鳩野洋子、島田美喜編集. 公衆衛生実践キーワード. 医学書院, 2014.
 2. 尾島俊之. 保健医療制度と医療資源、日本における公衆衛生に関連する行政の流れ. 柳川洋、中村好一編集. 公衆衛生マニュアル2014, 南山堂, 2014.
 3. 尾島俊之. 健康寿命の延伸、健康格差、他. 大井田隆、兼板佳孝、横山徹爾、曾根智史、山縣然太郎、水嶋春朔、尾島俊之、青山旬、谷原真一、中山健夫、吉池信男、小橋元、大橋正、西山裕、八木晴美、藤村由起子. 図説 国民衛生の動向 2014/2015. 一般財団法人厚生労働統計協会, 2015.
 4. 尾島俊之. 社会環境の変化と健康課題. 標美奈子著者代表. 公衆衛生看護学概論. 医学書院, 2015.
 5. 中村美詠子: 食事摂取基準, 栄養状態の評価, 日本人の栄養摂取. 五十嵐脩監修. 栄養, 実教出版, 2015.
 6. 中村美詠子: 栄養疫学の指標, 栄養疫学の方法. 古野純典, 伊達ちぐさ, 吉池信男編集. 公衆栄養学改訂第5版, 南江堂, 2015.
- B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し, 共著者が当該教室に所属していたもの (学内の共同研究)
- C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し, 共著者が当該教室に所属していたもの
1. 柳川洋、尾島俊之、北村邦夫、中村好一、倉田貞美、近藤今子、巽あさみ、千原泉、坪井聡、中村美詠子、西山慶子、原岡智子、水田明子、渡辺晃紀: 保健指導ノート2015 公衆衛生の現状. 日本家族計画協会, 2014.

(5) 症例報告

4 特許等の出願状況

	平成26年度
特許取得数 (出願中含む)	0件

5 医学研究費取得状況

(万円未満四捨五入)

	平成26年度	
(1) 文部科学省科学研究費	7件	(340万円)
(2) 厚生労働科学研究費	7件	(1,011万円)
(3) 他政府機関による研究助成	1件	(334万円)
(4) 財団助成金	0件	(0万円)
(5) 受託研究または共同研究	2件	(216万円)
(6) 奨学寄附金その他 (民間より)	0件	(0万円)

(1) 文部科学省科学研究費

尾島俊之（代表）基盤（C）26460831 ナッジ（Nudge）を用いた健康政策に関する基礎的及び実証的研究 平成26~28年度, 900,000円（新規）

中村美詠子（代表）基盤研究（C）25460744 食に関する社会的弱者対策：フード・インセキュリティに関する探索的研究, 平成25~27年度, 1,000,000円（継続）

岡田栄作（代表）若手研究（B）26780328 地域包括ケアシステム構築のための地域診断活用支援プログラムの開発, 平成26年度~28年度, 900,000円（新規）

尾島俊之（分担）基盤（B）22330172 心理社会面に着目した認知症の予防的福祉に向けた縦断研究, 研究代表者 星城大学 竹田徳則, 平成22年度~平成26年度, 100,000円（継続）

尾島俊之（分担）基盤（A）23243070 社会的排除としてのwell-being格差とソーシャル・キャピタルの研究, 研究代表者 日本福祉大学 近藤克則, 平成23年度~平成26年度, 200,000円（継続）

尾島俊之（分担）基盤（A）25253052 高齢者における健康の社会的決定要因に関する大規模パネル調査, 研究代表者 東京大学 近藤尚己, 平成25年度~平成30年度, 100,000円（継続）

岡田栄作（分担）基盤（A）23243070 社会的排除としてのwell-being格差とソーシャル・キャピタルの研究, 研究代表者 日本福祉大学 近藤克則, 平成23年度~平成26年度, 200,000円（継続）

(2) 厚生労働科学研究費

尾島俊之（代表）H24-地球規模-一般-009 健康の社会的決定要因に関する研究, 平成24年度~平成26年度, 5,708,000円

尾島俊之（分担）H25-循環器等（生習）-指定-022 社会的要因を含む生活習慣病リスク要因の解明を目指した国民代表集団の大規模コホート研究 NIPPONDATA80/90/2010, 研究代表者：滋賀医科大学 三浦克之, 平成25年度~平成29年度, 500,000円

尾島俊之（分担）H24-統計-一般-006 東日本大震災等の大災害と保健医療統計の分析・評価・推計に関する研究, 研究代表者 藤田保健衛生大学 橋本修二, 平成24年度~平成26年度, 800,000円

尾島俊之（分担）H25-長寿-一般-003 介護予防を推進する地域づくりを戦略的に進めるための研究, 研究代表者 日本福祉大学 近藤克則, 平成25年度~平成27年度, 100,000円

尾島俊之（分担）H25-次世代-一般-002 「健やか親子21」の最終評価・課題分析及び次期国民健康運動の推進に関する研究, 研究代表者 山梨大学 山縣然太郎, 平成25年度~平成27年度, 800,000円

尾島俊之（分担）H26-長寿-一般-006 データに基づき地域づくりによる介護予防対策を推進するための研究, 研究代表者 東京大学 近藤尚己, 平成26年度~平成28年度, 1,400,000円

尾島俊之 (分担) H26-特別-指定-029 健康寿命の国内と海外の現状把握と分析評価に関する研究,
研究代表者 藤田保健衛生大学 橋本修二, 平成 26 年度, 800,000 円

(3) 他政府機関による研究助成

中村美詠子 (分担) (独) 農業・食品産業技術総合研究機構 機能性を持つ農林水産物・食品開発プロジェクト:「β-クリプトキサンチンの抗メタボ効果等に着目した柑橘及びその加工食品の開発」中課題名「β-クリプトキサンチンと動脈硬化に関する縦断解析及びヒト介入試験」, 研究代表者 (独) 農業・食品産業技術総合研究機構 果樹研究所 カンキツ研究領域興津拠点 杉浦実, 平成 25~27 年度, 3,340,000 円 (継続)

(4) 財団助成金

(5) 受託研究または共同研究

尾島俊之 受託 旭化成ファーマ 412 骨粗鬆症を伴った脊椎変性疾患に対するインプラント手術における PTH の骨形成促進作用の臨床研究、1,080,000 円、
平成 26/ 8/ 1~平成 28/ 6/30

尾島俊之 受託 旭化成ファーマ 413 骨粗鬆症を伴った脊椎変性疾患に対する多椎間脊椎インプラント手術における PTH の骨形成促進作用の臨床研究、1,080,000 円、平成 26/ 8/ 1~平成 30/ 6/30

6 新学術研究などの大型プロジェクトの代表, 総括

7 学会活動

	国際学会	国内学会
(1) 特別講演・招待講演回数	0 件	0 件
(2) シンポジウム発表数	0 件	3 件
(3) 学会座長回数	2 件	2 件
(4) 学会開催回数	0 件	0 件
(5) 学会役員等回数	1 件	12 件
(6) 一般演題発表数	12 件	

(1) 国際学会等開催・参加

- 1) 国際学会・会議等の開催
- 2) 国際学会・会議等における基調講演・招待講演
- 3) 国際学会・会議等でのシンポジウム発表
- 4) 国際学会・会議等での座長

Ojima T. 39th World Congress of International Society of Medical Hydrology and Climatology, Kyoto (Japan), 2014.5

Ojima T. World Psychiatric Association (WPA) Section on Epidemiology and Public Health Meeting, Nara (Japan), 2014.10

5) 一般発表

口頭発表

Ojima T. Healthy Life Expectancies in Japan. Joint Action European Health and Life Expectancy Information System. The 3rd Enlarged Steering Committee Meeting. 2014.4, Paris (France)

Ojima T, Hayasaka S, Murata C, Nakade M, Nakamura M, Nakamura H, Okada E, Kondo K for the JAGES group. Regular bathing and sleep quality among older Japanese: large scale JAGES project. 39th World Congress of International Society of Medical Hydrology and Climatology, 2014.5, Kyoto (Japan)

Ojima T, Aida J, Yamamoto T, Kondo K, Hashimoto S. Healthy life expectancy with 20 or more teeth in Japan: An objective and internationally comparable health indicator for ageing. International Conference New Measures of Age and Ageing. 2014.12, Vienna (Austria)

Kamioka H, Tsutani M, Maeda M, Hayasaka S, Goto Y. Assessing the quality of study reports on spa therapy based on randomized controlled trials by the spa therapy checklist (SPAC). 39th World congress of International Society of Medical Hydrology and Climatology, Kyoto Japan, May2014.

Watanabe S, Ishizawa T, Tsunakawa M, Yano T, Ojima T, Hayasaka S. Relationships between health-rated QOL and habitual bathing. 39th World congress of International Society of Medical Hydrology and Climatology, Kyoto Japan, May2014.

Goto Y, Hayasaka S, Nakamura Y. The benefits of bathing with hot spring containing rich sulfur and sodium chloride - investigation in Tsukioka hot spring. 39th World congress of International Society of Medical Hydrology and Climatology, Kyoto Japan, May2014.

Hayasaka S, Eguchi M, Nakajima M, Takada M, Saito A, Matsubayashi H, Izumida R, Sugimori H, Goto Y, Kurihara S. Comparisons between students who regularly take hot bathtub baths and who do not. 39th World congress of International Society of Medical Hydrology and Climatology, Kyoto Japan, May2014.

Noda T, Hayasaka S, Ito C. Physical and psychological effects by ceramic bathing. 39th World congress of International Society of Medical Hydrology and Climatology, Kyoto Japan, May2014.

ポスター発表

Ojima T, Kojima M, Tsuboya T, Kondo N, Okada E, Nakamura M, Saito M, Aida J, Kondo K, JAGES group. Prevalence and health outcomes of inappropriate drinking among older Japanese. World Psychiatric Association (WPA) Section on Epidemiology and Public Health Meeting, 2014.10, Nara (Japan)

Ojima T, Okada E, Saito M, Nakamura H, Nakamura M, Kondo N, Kondo K, JAGES Group. Housing status and disparities of healthy life expectancy: JAGES cohort project. 20th World Congress of Epidemiology, 2014, 8, Anchorage (USA).

Nakamura M. Decennial change of pulse wave velocity and serum carotenoids: the Mikkabi study, The 20th IEA World Congress of Epidemiology, 2014,8, Anchorage(USA).

Goto Y, Hayasaka S, Nakamura Y. Health benefits of bathing in bathtub investigating through gene expression. 142nd APHA Annual Meeting and Exposition, New Orleans, LA. Nov 2014

(2) 国内学会の開催・参加

1) 主催した学会名

2) 学会における特別講演・招待講演

3) シンポジウム発表

尾島俊之：大規模災害における公衆衛生アセスメント，第 73 回日本公衆衛生学会シンポジウム 2014.11, 栃木

岡田栄作：ロジックツリーを合意形成・判断枠組の共有に活かすための新しい提案法の紹介，ファシリテーションシンポジウム 2014, 2014.5, 広島

岡田栄作：Evidence-Based Practice を支えるためのバイオ統計学の挑戦と貢献 - 根拠に基づいた政策を実施するためには何が必要か - ～ J A G E S プロジェクトでの研究事例から～, バイオ統計学の挑戦と貢献, 2015.2, 福岡

4) 座長をした学会名

尾島俊之 第 60 回東海公衆衛生学会学術大会

中村美詠子 第 73 回日本公衆衛生学会総会

(3) 役職についている国際・国内学会名とその役割

尾島俊之 日本循環器病予防学会 (理事)

尾島俊之 日本疫学会 (評議員)

尾島俊之 日本公衆衛生学会 (評議員)

尾島俊之 日本栄養改善学会 (評議員)

尾島俊之 東海公衆衛生学会 (理事)

尾島俊之 日本産業衛生学会東海地方会 (理事)

尾島俊之 日本多施設共同コホート(J-MICC)研究 モニタリング委員 (日本疫学会からの推薦)

尾島俊之 第 21 回国際疫学会総会事務局長

尾島俊之 日本産業衛生学会 (代議員)

中村美詠子 日本疫学会 (評議員)

中村美詠子 日本栄養改善学会 (評議員)

中村美詠子 日本栄養改善学会東海支部会 (幹事)

中村美詠子 東海公衆衛生学会 (評議員)

8 学術雑誌の編集への貢献

	国内	外国
学術雑誌編集数（レフリー数は除く）	1件	1件

(1) 国内の英文雑誌等の編集

早坂信哉 J Jpn Soc Balneol Climatol Phys Med Editorial Board PubMed/Medline 登録無、IF 無

(2) 外国の学術雑誌の編集

尾島俊之 PLOS ONE (Public Library of Science, USA), Academic Editor (Indexed for PubMed, Impact Factor 3.534)

(3) 国内外の英文雑誌のレフリー

尾島俊之 2回 Journal of Epidemiology (Japan)

尾島俊之 1回 Asia Pacific Journal of Clinical Nutrition (Australia)

尾島俊之 1回 BMC Medical Research Methodology (England)

尾島俊之 1回 Geriatrics & Gerontology International (Japan)

尾島俊之 1回 Thrombosis Journal (England)

中村美詠子 1回 Hypertension Research (Japan)

早坂信哉 1回 J Jpn Soc Balneol Climatol Phys Med (Japan)

9 共同研究の実施状況

	平成26年度
(1) 国際共同研究	1件
(2) 国内共同研究	11件
(3) 学内共同研究	0件

(1) 国際共同研究

1. JA EHLEIS (Joint Action European Health and Life Expectancies Information System), INED (Institut National d'Etudes Démographiques, France), INSERM (Institut national de la santé et de la recherche médicale, France), 2011-2014, 資料の交換・会議での検討, UC (European Commission)

(2) 国内共同研究

1. NIPPON DATA 研究, 三浦克之 (滋賀医科大学社会医学講座), 他
2. JAGES (日本老年学的評価研究), 地域在住高齢者の要介護発生に関わる要因に関する追跡研究, 心理社会面に着目した認知症の予防的社会福祉に向けた縦断研究, 近藤克則 (日本福祉大学社会福祉学部), 竹田徳則 (星城大学)
3. 健康の社会的決定要因に関する研究, 近藤克則 (日本福祉大学), 橋本英樹・近藤尚己 (東京大学大学院), 高尾総司 (岡山大学大学院), 藤原佳典 (東京都健康長寿医療センター研究所), 稲葉陽二 (日本大学法学部)
4. 三ヶ日町研究, 杉浦実 ((独) 農業・食品産業技術総合研究機構果樹研究所)
5. 高機能みかんジュースに関する介入研究, 杉浦実 ((独) 農業・食品産業技術総合研究機構果樹研究所)

6. 職域・学校における自閉症スペクトラムに関する研究, 早川徳香 (南山大学)
7. 大学生の食生活に関する研究, 亀山良子 (甲子園大学)
8. 健やか親子 21 に関する研究, 山縣然太郎 (山梨大学大学院医学工学総合研究部社会医学講座), 他
9. 健康寿命に関する研究, 橋本修二 (藤田保健衛生大学医学部衛生学講座)、辻一郎 (東北大学大学院医学系研究科公衆衛生学講座), 齋藤安彦 (日本大学大学院)
10. 東日本大震災等の大災害と保健医療統計の分析・評価・推計に関する研究, 橋本修二 (藤田保健衛生大学), 坂田清美 (岩手医科大学), 早川岳人・林正幸 (福島県立医科大学), 山縣然太郎 (山梨大学大学院), 村上義孝 (滋賀医科大学), 他
11. 災害における公衆衛生的な活動を行う支援組織の創設に係る研究, 高野健人・大友康裕 (東京医科歯科大学), 中村好一 (自治医科大学), 山縣然太郎 (山梨大学大学院), 押谷仁 (東北大学大学院), 金谷泰宏 (国立保健医療科学院), 他

(3) 学内共同研究

10 産学共同研究

	平成 26 年度
産学共同研究	2 件

1. 骨粗鬆症を伴った脊椎変性疾患に対するインプラント手術 (及び多椎間脊椎インプラント手術) における PTH の骨形成促進作用の臨床研究
旭化成ファーマからの受託研究として、無作為比較対照試験を行っており、その研究デザインの策定及び統計解析などを担当している。

11 受賞

12 研究プロジェクト及びこの期間中の研究成果概要

1. JAGES (日本老年学的評価研究) プロジェクト

日本福祉大学の近藤克則教授が中心となって進めている JAGES (Japan Gerontological Evaluation Study, 日本老年学的評価研究) プロジェクトに、当講座も関わっている。本研究は 1999 年に愛知県の 2 自治体で始まり、2013 年には北海道から沖縄までの 30 自治体 10 万人超の大規模コホートとなった。(尾島俊之, 中村美詠子, 岡田栄作, 仲村秀子, JAGES プロジェクト, 千葉大学予防医学センター, 日本福祉大学健康社会研究センター)

2. 健康の社会的決定要因に関する研究

厚生労働科学研究費補助金 (地球規模保健課題推進研究事業) 「健康の社会的決定要因に関する研究」(研究代表者 浜松医科大学健康社会医学講座 尾島俊之教授) を実施している。最近、国際的にも注目されている健康の社会的決定要因に関する総合的な研究として、(1) 国内外の情報収集, (2) 個人・地域データの調査・分析, (3) 新たな対応方策の創出, (4) 対策の試行, (5) 情報の国内外への発信の 5 本の柱で研究を進行している。(尾島俊之, 岡田栄作, 日本福祉大学, 東

京大学大学院，岡山大学大学院，東京都健康長寿医療センター研究所，日本大学法学部)

3. 健康寿命に関する研究

厚生労働科学研究補助金(特別研究事業)「健康寿命の国内と海外の現状把握と分析評価に関する研究」(研究代表者 藤田保健衛生大学 橋本修二)、厚生労働科学研究費補助金(循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究事業(循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策政策研究事業))「健康日本21(第二次)の推進に関する研究」(研究代表者 東北大学大学院医学系研究科公衆衛生学講座 辻一郎教授, 研究分担者 藤田保健衛生大学医学部衛生学講座 橋本修二教授)に参画している。当講座では、海外の現状把握と分析評価、健康寿命の国際的な指標化に関する検討等を担当している。本研究の成果は、国の健康日本21(第二次)の策定、推進に活用されている。(尾島俊之, 岡田栄作, 藤田保健衛生大学, 日本大学, 東北大学大学院, 東邦大学)

4. NIPPON DATA 研究

厚生労働科学研究費補助金(循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究事業(循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策政策研究事業))「社会的要因を含む生活習慣病リスク要因の解明を目指した国民代表集団の大規模コホート研究:NIPPON DATA 80/90/2010」(研究代表者 滋賀医科大学社会医学講座 三浦克之教授)の分担研究として実施した。当講座では、NIPPON DATA 2010の社会的要因分析、脂質異常症に影響する要因の変化などを担当している。(尾島俊之, 中村美詠子, 柴田陽介, 近藤今子, 滋賀医科大学など)

5. JA EHLEIS (Joint Action European Health and Life Expectancies Information System, 健康・平均寿命情報システムに関する欧州共同事業)

JA EHLEISは、欧州委員会(UC, European Commission)とほとんどの欧州連合(EU)加盟各国の共同、さらに米国、日本の参画による、2011~2014年までの予定のプロジェクトである。Dr. Jean-Marie Robine (Institut national de la santé et de la recherche médicale, France, フランス国立衛生医学研究所)を中心として、(1)平均寿命及び健康寿命の共同分析及び統合のための中心基地となり、欧州の人々の寿命の検討に質的な向上の側面を加えることに資すること、(2)加盟国間の格差の状況を明らかにすること、(3)各国及び欧州全体での公衆衛生戦略における今後の重点を明らかにすることの3つを主な目的として検討を行っている。日本を代表して、このプロジェクトに参加している。(尾島俊之)

6. 高機能みかんジュースに関する介入研究

β -クリプトキサンチンを強化したみかんジュースを用いて12週間の無作為化比較試験を実施した。動脈硬化の指標である脈波速度、関連バイオマーカー(酸化LDL等)等を評価した。現在プレ解析を実施中であり、今後血清 β -クリプトキサンチンレベル等を考慮した多変量解析等を実施、報告予定である。(中村美詠子)

7. 日常生活圏域ニーズ調査を用いた地域診断書の開発に関する研究

介護保険事業計画を策定するための「地域診断書」を作成し、自治体が根拠に基づいた政策が行えるよう支援を行う研究を始めた。申込市町村は、全国 36 都道府県 102 介護保険者 117 市町村の協力が得られ、35 万 3655 人から回答を得た。現在はデータベースを整理し、本研究の概要を報告予定である。(岡田栄作)

8. その他の研究

ナッジ (Nudge) を用いた健康政策に関する基礎的及び実証的研究, 食に関する社会的弱者対策: フード・インセキュリティに関する探索的研究, 健やか親子 21 に関する研究, 東日本大震災等の大災害と保健医療統計の分析・評価・推計に関する研究, 災害における公衆衛生的な活動を行う支援組織の創設に係る研究, などを実施した。

13 この期間中の特筆すべき業績, 新技術の開発

14 研究の独創性, 国際性, 継続性, 応用性

1. JAGES プロジェクトは, 公衆衛生学のみならず, 社会学, 経済学, 地理学などの研究者が名を連ねるなど学際的である。また, 所得や教育と健康の関連についても検討を加えるなど独創的な視点から研究が進められている。一般高齢者 10 万人以上を対象にした社会疫学に関するコホート研究は, 国内外でも貴重である。この一環として, 米国ハーバード大学や, イギリスとの共同研究も行っている。この研究は, 根拠に基づく保健医療政策立案に向け, 基礎的データの提示を目標としているが, 政策に直結するこのような実証研究への期待は今後ますます高まると思われ, 研究の継続性, 政策への応用性が見込まれる。
2. 三ヶ日町研究は, β クリプトキサンチン摂取量の多いみかん産地住民を対象として, 血清 β クリプトキサンチンを評価しているコホート研究であり国際的にも他に見当たらない。さらに β クリプトキサンチンの効果を検証するための新たな介入試験を開始し, 研究を発展させている。
3. JA EHLEIS (Joint Action European Health and Life Expectancies Information System, 健康・平均寿命情報システムに関する欧州共同事業)は, 欧州を中心としながら, 米国, 日本も参画した国際的な共同研究事業である。健康寿命算定の国際的なハーモナイゼーション, 新しい総合健康指標の開発を目指している。

15 新聞, 雑誌等による報道

1. 中村美詠子, 杉浦実, JA みっかび: 「ミカンの機能性科学的に証明へ」, 日本農業新聞, 2014 年 5 月 2 日
2. 尾関佳代子: 頭痛と天気やっばり関連, 静岡新聞, 2014 年 7 月 4 日
3. 尾関佳代子: 悪天候で頭痛 データ裏付け, 中日新聞, 2014 年 7 月 5 日
4. 尾関佳代子: 悪天候と鎮痛剤売上の関連性は, 薬事日報, 2014 年 7 月 16 日
5. 尾関佳代子: 気圧が下がると鎮痛剤が売れる!, 日刊ゲンダイ, 2014 年 7 月 16 日

6. 尾関佳代子： 気象の変化と頭痛－OTC頭痛薬の売上を用いた大規模研究－, 薬事日報, 2014年8月13日
7. 尾島俊之： 健康長寿県から学ぶ！ゲンキで長生き術, 健康カプセル！ゲンキの時間, SBS/TBS, 2014年8月24日
8. 尾島俊之： 市町村別“お達者度”発表, たっぷり静岡, NHK, 2014年8月26日
9. 尾島俊之： “健康寿命”延ばす初の検討会議, たっぷり静岡, NHK, 2014年8月26日
10. 尾島俊之： “健康寿命”に取り組む自治体の研修会, NHK ニュース, NHK, 2014年9月5日
11. 尾島俊之： 健康長寿の秘けつ, News Web, NHK, 2014年9月15日
12. 中村美詠子, 杉浦実, JAみっかび： 「β-クリプトキサンチンの研究について」news every. しずおか, 静岡第一テレビ, 2014年9月26日
13. 尾島俊之： のぼそう！健康寿命、夕方特集 私も一言, NHK ラジオ, 2014年10月6日
14. 早坂信哉：TBS「所さんのニッポンの出番」出演 2014年12月9日放送
15. 早坂信哉： テレビ朝日「年末！カラダを大そうじ ニッポンの湯治旅スペシャル」出演 2014年12月28日放送
16. 早坂信哉： テレビ朝日「年末！カラダを大そうじ ニッポンの湯治旅スペシャル」出演 2014年12月28日放送
17. 尾島俊之： 健康寿命 意識高まり伸びる傾向, 新潟日報, 2015年1月1日
18. 尾関佳代子： 気象因子と頭痛の関連－市販鎮痛薬の売上を用いて－, 浜松医科大学 NEWSLETTER No.41, 2015年2月5日
19. 中村美詠子, 杉浦実, JAみっかび： 県産温州ミカン「保健機能」表示, 中日新聞1面, 2015年2月25日
20. 中村美詠子, 杉浦実, JAみっかび： 研究10年、効果突き止める, 中日新聞34面, 2015年2月25日
21. 杉浦和子： 心と体知って人権考えて, 三河新報, 2015年3月14日